

景況15期連続プラス

沖縄公庫 好況感すそ野拡大

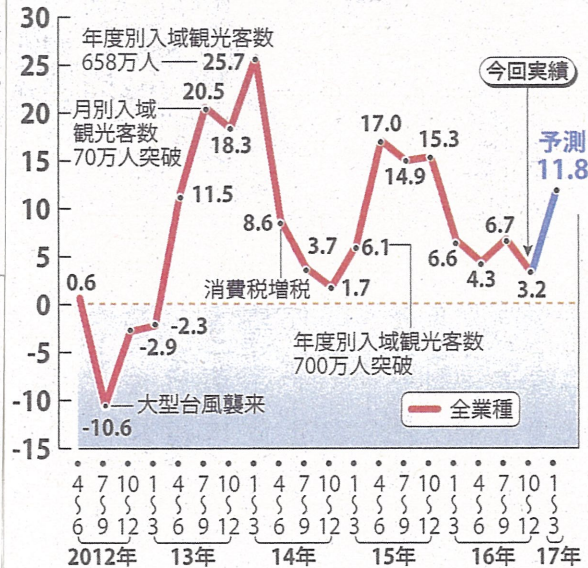
沖縄振興開発金融公庫（川上 好久理事長）が13日発表した2016年10～12月期の県内企業景況調査は、前年同期と比べ景況が「好転」したと回答した企業の割合から「悪化」したとする割合を引いた業況DIが3・2となり、15期連続のプラス超となった。好調な観光と建設から関連業種に好況感が広がった。

業種別では飲食店・宿泊業で前年並みの好況感から「不変」を選ぶ割合が増加。前期（7～9月期）の70・4から大幅に縮小したが、39・1と高水準を維持した。

インバウンド（訪日外国人客）需要の高まりから、卸売業は食品卸で、小売業は百貨店・スーパーで好調となり、それぞれプラス超となった。観光施設やリネン、旅行が含まれるサービス業もマイナス超から、好転と悪化が同数の「もちあい」に転じた。

建設業は公共・民間工事ともに底堅く、プラス超幅は16・9と拡大。運輸業と製造業はマイナス超だが、窯業・土石では期待感が高まった。情報

沖縄公庫業況判断DIの推移



通信業はアプリ開発など情報サービスで人手不足が深刻化、外注や納期遅れが発生してマイナス25と落ち込んだ。雇用判断DIは46・3で人

手不足感は過去最高となった。運輸業と飲食店・宿泊業を除く6業種で不足超幅が拡大し、小売業とサービス業、飲食店・宿泊業は50以上の逼迫している。経営上の問題

点も8期連続で「求人難」が最多となり、人材確保のための賃金上昇で「人件費の増加」割合も高くなっている。

沖縄県内景況

15期連続プラス

10月12月 人手不足感最高

県内景況天気図

※景況天気は売上DI・採算水準DI・資金繰りDIの平均値

(沖縄公庫)		2015年				2016年			2017年	
区分		7~9月期 実績	10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 前回実績	10~12月期 前回見通し	今回実績	今回見通し	
業種										
全業種(好転-悪化)		☁️ 14.8	☁️ 19.0	☁️ 15.7	☁️ 12.8	☁️ 12.1	☁️ 16.9	☁️ 15.3	☁️ 16.0	
製造業		☁️ 18.2	☁️ 24.2	☁️ 16.1	☁️ 8.7	☁️ 2.6	☁️ 17.2	☁️ 7.3	☁️ 12.5	
建設業		☁️ 5.6	☁️ 9.0	☁️ 14.0	☁️ 7.6	☁️ 6.2	☁️ 10.8	☁️ 16.4	☁️ 15.4	
卸売業		☁️ 20.6	☁️ 25.6	☁️ 19.0	☁️ 17.5	☁️ 17.1	☁️ 23.1	☁️ 27.8	☁️ 27.0	
小売業		☁️ 17.8	☁️ 18.5	☁️ 22.0	☁️ 21.7	☁️ 25.2	☁️ 30.9	☁️ 20.3	☁️ 20.3	
運輸業		☁️ 7.8	☁️ 28.1	☁️ 13.7	☁️ 3.9	☁️ 4.9	☁️ 7.8	☁️ 2.9	☁️ 9.8	
情報通信業		☁️ 1.8	☁️ ▲5.3	☁️ 8.8	☁️ 7.4	☁️ ▲15.8	☁️ ▲3.5	☁️ ▲11.7	☁️ 8.3	
サービス業		☁️ 5.9	☁️ 13.3	☁️ 9.4	☁️ 9.5	☁️ 6.7	☁️ 10.7	☁️ 18.0	☁️ 13.3	
飲食店・宿泊業		☁️ 50.0	☁️ 43.5	☁️ 23.6	☁️ 34.7	☁️ 60.5	☁️ 37.0	☁️ 42.0	☁️ 18.8	

☀ 快晴…30以上~100以下 ☁ 晴…10以上~30未満 ☁ 薄曇り…▲5以上~10未満
☁ 曇り…▲30以上~▲5未満 🌧 雨…▲100以上~▲30未満 (単位：%ポイント)

沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長）は13日、2016年10~12月期の県内企業景況調査を発表した。前年同期に比べて景況が「好転」したと答えた企業から「悪化」したと答えた企業を引いた割合を示す業況判断指数（DI）は、プラス3・2と15四半期連続でプラスとなった。景況天気も15四半期連続で「晴れ」となった。

一方、企業の人手不足感を示す雇用判断DIはマイナス46・3と「不足」超幅が前期（7~9月期）より6・4ポイント悪化し、2四半期ぶりに過去最高水準を更新した。連動する形で、企業の経営上の問題点として「求人難」を上げる割合が最多となり、全ての業種に人手不足が広がっている。

業種別の業況判断DIでは、卸売業が「好転」と「悪化」が同数となる「もちあい」からプラス2・4と「好転」超となった。一方、製造業と運輸業は「もちあい」からそれぞれマイナス4・7、マイナス11・8と「悪化」超に転じ、サービス業はマイナス6・0の「悪化」超から「もちあい」となった。

前回、過去最高を記録した飲食店・宿泊業は「好転」幅が縮小し、プラス39は最大の「好転」超だった。一方、情報通信業が前ス25・0となった。



から、客室
数の半分に
か予約を入
れられなか
った事例が

記者の窓

ホテル業界の人手不足

働き方改革待ったなし

2020年の那覇空港第2

滑走路完成や東京五輪の訪日
観光需要を見込み、沖縄は空
前のホテル開発ラッシュだ。
ただし関係者からは「これだ
け客室を増やして本当に従業
員は確保できるのか」と懸念
の声が聞こえてくる。

最近完成したある高級ホテ
ルで客室清掃の人手を確保で
きず、鳴り物入りで開業しな

あるという。

沖縄振興開発金融公庫が昨
年発表した調査は、20年まで
に6千～8千の客室が整備さ
れると積算した上で、「4千人
以上の雇用が必要になる計算
だが、既に現状でも人手不足
から運用の維持が厳しい」と
分析した。「地元ホテルの悩み
を聞き、人手不足の深刻さを
県民に知らせなければと感じ

た」。調査を実施した担当者の
動機を印象深く聞いた。

一郎松嶺那与

海洋博の前後から沖縄観光
を支えてきた県内資本の老舗
ホテル。国内や海外の巨大資
本が相次いで沖縄に乗り出し
て競争は激化し、人材の確保
でも世界的知名度があるブラ

経済部

ンドのホテルを相手にしなけ
ればならない。大型ホテル増
による人手不足の深刻化は、
地場の中小ホテルほど経営を
追い込む圧力となる。

従業員の定着率の悪さが構
造化してきた業界でもある。

ホテルは365日、24時間眠

らない。朝食を用意し、宿泊
客を送り出すと、次のチェッ
クインまでに客室の清掃を済
ませる。フロントから宴会、
清掃まで一人何役もざらだ。
「こんな仕事と思わなかつ
た」と働く側とのミスマッチ
が起きやすい。

外国人労働の規制緩和は大
きな関心と呼ぶだろうが、国内
に賛否両論がある。即効性の
ある妙手はなくとも、待遇改
善をはじめ業界として働き方
の改革は待ったなしだ。沖縄
のリーディング産業を支える
現場の姿を伝えていきたい。